



記入日 2017年1月13日

1. 概要

実践団体名	名古屋市立工芸高等学校 防災チーム		
連絡先	052-931-7541		
プランタイトル	つなぐ ～地域、企業、行政、学校の架け橋を目指して～		
プランの対象者※1	地域住民、小学生、 障害者、高校生、教職員、 地元企業、行政	対象とする 災害種別※2	災害全般

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

工業と芸術の学校である工芸高校の特徴を活かして、災害時に役立つ「災害かまどベンチ」、「防災リーフレット」を地域、企業、行政と協力して製作し、地域力・防災力の高いまちづくりを目指す。

防災活動を通じて、地域、企業、行政、学校のそれぞれが持つ課題を共に考え、協力し、解決していく、コミュニティ力向上のプランである。

【プランの概要】

○防災、減災に対する生徒、教員1人1人と学校全体としてのスキルアップを目指す取り組み。

- ・募金活動への参加（他団体主催）。募金活動の企画、立案、実施（校内）。
- ・地域、他校、他団体が主催する防災活動への参加。
- ・防災リーフレット、防災パネル製作を通して、防災、減災に関する啓発活動を行う。
- ・全校生徒、全教員対象の予告なしの「いきなり防災訓練」企画、立案、実施。

○地域、企業、行政、各種団体、学校の連携を深める取り組み。

- ・近隣小学校、保育所に災害かまどベンチ製作を行う。
- ・工芸高校において、地域、企業、行政、他校を対象とした1泊2日の宿泊型避難訓練を開催する。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

防災関係のものづくりを通じて、地域、企業、行政と連携を深めることが出来る。また、高校生の持つ若い力を地域の力として、防災をはじめ、福祉、教育、ボランティアなど様々な地域活動に取り組み、地域力の向上に貢献することが出来る。

2. プランの年間活動記録 (2016 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	今年度活動計画の検討 ・活動報告会（工芸） ・熊本地震募金活動	活動計画の決定 プレゼン資料製作 募金箱、ポスター製作	年間計画、各種団体との連絡調整 全校集会にて防災活動報告会 校内募金活動（4月下旬から5月上旬）
5 月	・スキルアップ	水災害勉強会	5/29 東区総合水防訓練参加
6 月	・地域連携 ・地域連携（防災団体よ り以来）	資料製作 防災イベントチラシ製作打 ち合わせ	6/11 東区ボランティア連絡会総会参加 6月-10月 防災フェスタ 2017 in ひがしチラ シ製作
7 月	・スキルアップ	名古屋高校事前合同会議	7/29-30 名古屋高校宿泊訓練参加
8 月	・地域連携 ・地域連携 ・スキルアップ	災害かまどベンチ製作 防災缶バッジ製作準備 帰宅支援セット勉強会	8/3-10 近隣小学校災害かまどベンチ設置 8月下旬 近隣保育所災害かまどベンチ設置 8/19 キッズ防災フェスタ スタッフ 8/28 帰宅支援セット試食検討会
9 月	・地域連携、スキルアッ プ ・スキルアップ ・啓発活動	福祉避難スペース勉強会 関係機関合同打ち合わせ 訓練企画、立案、運営 炊き出し準備、練習	9/4 東区総合防災訓練参加、運営 9/7 いきなり防災訓練実施 9/24-25 矢田学区宿泊訓練参加
10 月	・啓発活動 ・地域連携 ・スキルアップ ・地域連携、啓発活動	防災ブース運営計画 防災グッズ勉強会 災害と食事勉強会 宿泊訓練計画、立案 ワークショップ準備	10/1 工芸高校文化祭防災ブース運営 10/16 なごやかまつり・ひがし スタッフ 10/21 非常食試食会、検討会 10/28-29 工芸高校宿泊型避難訓練開催
11 月	・成果発表	資料製作、プレゼン製作	11/18 持続可能な明日をめざすシンポジウム （ESD）成果発表（名古屋市公館）
12 月	・成果発表、啓発活動 東区役所打ち合わせ ・スキルアップ	パネル製作、体験ブース準備 災害ボランティア勉強会	12/18 まちサポエキシビジョン体験ブース 運営、パネル展示（市民ギャラリー矢田） 12/23 災害ボランティアセンター設置訓練 参加
1 月	・スキルアップ	プレゼン勉強会	解りやすいプレゼンについて勉強会実施
2 月	・成果発表、啓発活動 地域連携	パネル製作、ブース準備	2/11 防災フェスタ 2016in ひがしブース展 示、炊き出しスタッフ（東区役所）
3 月	1年の活動を振り返って	1年の反省と来年度の展望	来年度活動計画

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	生徒・教員1人1人と学校のスキルアップを目指して
実施月日（曜日）	通年（関係団体の防災イベント実施日）
実施場所	関係団体の防災イベント開催場所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク、東区ボランティア連絡会、名古屋市東区役所、名古屋市社会福祉協議会、レスキューストックヤード、名古屋中学校・高等学校防災減災チーム
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係防災団体のイベント開催時間、準備時間、まとめ時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事 2 講習会・学習会・ワークショップ 16 避難・防災訓練
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	関係団体の防災に関するイベントに参加し、防災減災に関する知識、技術を身に着け、1人1人の防災減災に関するスキルアップを目的とする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>・東区ボランティア連絡会総会、定期報告会、活動報告会に参加し、情報交換に努め、各団体の得意分野で協力して取り組む体制を構築した。</p> <p>・関係団体の会長、役員の方々とイベント参加に必要な知識、技術を防災チーム定例会議で学習してからイベントに参加した。</p> <p>○熊本地震募金活動（4月中旬～5月上旬）</p>    <p>○東区総合水防訓練参加（5月29日）</p>   

	<p>○名古屋高校中学校宿泊訓練参加（7月29日～30日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出し担当として、名古屋高校生、地域の方々と共に行った。  <p>○東区総合防災訓練参加、運営（9月4日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難スペース製作を担当した。 ・事前下見、小学校、関係団体と打ち合わせを行った。  <p>○矢田学区宿泊訓練参加（9月24日～25日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出し担当として、昨年度製作したかまどベンチを用いて、炊き出しを行った。 ・防災チームの活動パネル展示、活動報告を行い、矢田学区の方々に防災チームの活動を広めることができた。 <p>○防災ボランティアセンター設置訓練参加（12月23日）</p>
<p>準備、使用したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材 ・道具、材料等 	<p>【人材】 関係団体担当者</p> <p>【道具、材料等】 炊き出し用品（薪、バーナー、洗剤、たわし、軍手、レコブリック、コンクリートブロック、鉄筋、結束線、ハッカー） 募金箱、展示用パネル</p>
<p>参加人数</p>	<p>各イベント 防災チーム参加人数 10名程度</p>
<p>経費の総額・内訳概要</p>	<p>材料代、消耗品代 約30000円</p>
<p>成果と課題</p>	<p>【成果】地域、学校、行政等が主催するイベントに参加し、防災、減災に関する知識、技術を身に付けることができた。また、地域の方々と共に取り組むことができ、顔なじみの関係を構築することができた。</p> <p>【課題】イベント参加後の検討会開催がなかなか行うことができなかった。今後は1つ1つの活動に対するフォローをしっかりとし、今後の活動につなげていくように努める。</p>
<p>成果物</p>	<p>各イベントの参加体験パネル</p>

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	地域、企業、役所、学校の架け橋を目指して
実施月日（曜日）	通年（関係団体の防災イベント実施日）
実施場所	関係団体の防災イベントの開催場所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク、東区ボランティア連絡会、名古屋市東区役所、名古屋市社会福祉協議会、愛知県建設業協会、レスキューストックヤード、工芸高校
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係防災団体のイベント開催時間、準備時間、まとめ時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事 13 体験学習 16 避難・防災訓練
活動目的※5	3 災害に強い地域を作る
達成目標	地域、企業、役所、学校の連携を深め、各種団体の架け橋を目指して活動を行う事を目的とする
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>○各種団体の防災イベントチラシ製作（6月～11月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災イベントの告知、参加募集を呼びかけるチラシ製作を、地域の団体からの要請で行った。 ・チラシは、実際のイベントで活用された。 <div data-bbox="598 1153 957 1657"> </div> <div data-bbox="981 1153 1348 1657"> </div> <p>○名古屋市立東桜小学校に災害かまどベンチを設置（8月上旬）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東桜学区、東桜小学校と設置場所、形状、工期等の打ち合わせを行った。 ・製作したかまどベンチは、防災訓練等で活用される予定である。 <div data-bbox="550 1803 821 2004"> </div> <div data-bbox="837 1803 1109 2004"> </div> <div data-bbox="1125 1803 1396 2004"> </div>



・今後、定期的にメンテナンスを行う予定である。また、今年度は、近隣保育所の要請を受け、保育所にも災害かまどベンチを製作してきた。

○キッズ防災フェスタ ボランティアスタッフ (8月19日)

・東区社会福祉協議会と打ち合わせを行い、防災ゲーム、缶バッチ製作を行った。



○いきなり防災訓練企画、立案、運営 (9月7日)

・生徒、教員に対して、予告なしの避難訓練(地震)を行った。
 ・工芸高校総務部防災係と打ち合わせを行った。
 ・ミッションとして、けが人、避難経路封鎖などの準備、計画、実施を行った。



○なごやかまつり・ひがし防災ブース ボランティアスタッフ (10月16日)



○工芸高校宿泊型避難訓練開催 (10月28日～29日)

・工芸高校の地元学区である東白壁学区長、東区役所防災担当者と宿泊訓練の打ち合わせを行った。
 ・炊き出し訓練で、中心になって活動していただく、東白壁ボランティアクラブの代表者と打ち合わせを行った。
 ・地元企業へ宿泊型避難訓練に向けて協力を要請し、昨年引き続き今年度も敷島製パン株式会社に支援をいただいた。
 ・工芸高校職員会議等で本校職員に協力を要請した。
 ・全校集会、参加募集ビラを配布し、本校生徒の参加者を募った。
 ・ワークショップの準備、打ち合わせ、シュミレーションを関係団体と共に行った。





準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	【人材】 関係団体担当者 【道具、材料等】 かまどベンチ製作（発電機、ガスボンベ、電動工具、セメント等） 宿泊訓練ワークショップ（ソーラークッカー用品、食材等） チラシ、パネル製作（トナー、用紙等）
参加人数	○各種団体のイベントチラシ製作 8名 ○キッズ防災フェスタ ボランティアスタッフ 10名 ○いきなり防災訓練企画、立案、運営 全校生徒・全教員 900名 ○なごやかまつり・ひがし防災ブースボランティアスタッフ 10名 ○工芸高校宿泊型避難訓練開催 90名
経費の総額・内訳概要	パネル代、消耗品代、宿泊訓練ワークショップ代 約 80000 円
成果と課題	【成果】 防災減災について考え、イベントを成功させることが出来た。各種団体の防災イベントチラシ製作においては、工芸高校の特色を生かした取り組みとして今後も継続して取り組んでいくイベントとなった。宿泊訓練において、昨年度の反省を生かして、工芸高校が準備をしすぎることなく、地域と共に作り上げることが出来た。 【課題】 チラシ製作において、入念に、関係団体と打ち合わせを繰り返し、製作に取り組んだ。その結果時間がかかりすぎてしまい、今年度のメイン企画の1つである防災リーフレット製作のスタートがかなり遅れてしまった。次年度以降は、作業工程に注意して製作に取り組めるように努める。
成果物	各イベントの参加体験パネル

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	啓発活動、成果発表
実施月日（曜日）	通年（関係団体の防災イベント実施日）
実施場所	関係団体の防災イベントの開催場所
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：関係団体担当者 所属・役職等：名古屋市東区役所、なごや環境大学、愛知県建設業協会、名古屋市建設業協会、工芸高校
所要時間または「コマ数×単位時間」	関係防災団体のイベント開催時間、準備時間、まとめ時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	8 防災の意識を高める
達成目標	防災チームの活動を展示発表し、生徒、学校、地域の方々の防災意識を高めることを目的とする。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<p>○持続可能な明日をめざすシンポジウム成果発表（11月18日） 主催：なごや環境大学 会場：名古屋市公館 ・愛知県建設業協会より、シンポジウムで取り組みの発表のオファーを頂いた。 ・防災チームの活動目的、内容などの取材を受け、名古屋市公館で開催されるシンポジウムでの発表が決定した。</p> <p>○まちサポエキシビジョン（12月18日） 主催：名古屋市東区役所 会場：市民ギャラリー矢田 ・東区まちづくり推進室担当者と打ち合わせを行った。 ・災害と食のワークショップを行った。 ・防災パネル展示を行い啓発活動を行った。</p> <p>○防災フェスタ 2016in ひがし（2月11日） 主催：名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク 会場：東市役所 ・名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク会長と打ち合わせを行った。 ・防災パネル展示をし、啓発活動を行う予定である。 ・炊き出しを担当し、地域の方々と共に取り組む予定である。 ・ボランティアスタッフとして運営に携わる予定である。</p>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>【人材】 関係団体担当者</p> <p>【道具、材料等】 防災パネル、ワークショップ材料</p>
参加人数	各イベント 防災チーム参加人数 10名程度
経費の総額・内訳概要	各種消耗品 約20000円



成果と課題	【成果】工芸高校防災チームの取り組みを展示、発表することにより、生徒、教員、地域の方々に防災減災について考え行動するきっかけを作ることが出来た。 【課題】啓発の対象が、昨年度に比べ広範囲に広げて行うことが出来た。しかし、地元中学校、小学校などの近隣学校に対しての啓発活動が不十分に終わってしまった。今後は、小中学校等の連携を深めて防災啓発活動に取り組んでいきたい。
成果物	発表用資料、成果パネル

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○地域連携活動（工芸高校主催宿泊防災訓練の開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の反省を生かして、計画段階から地域の方々と打ち合わせをくり返したが、地域の方々との防災活動に対する温度差に、地域と共に歩んでいく難しさを感じた。 ・昨年に引き続き、宿泊防災訓練を開催するにあたって、昨年度とは違うワークショップの内容や、講話の内容など新たな取り組みを考えることに苦勞した。 <p>○いきなり防災訓練の開催、帰宅困難訓練の開催（工芸高校主催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事が多く、全校生徒を対象とした新たなイベントの時期を行事予定に追加することに苦勞した。 <p>○各種団体主催イベントへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの防災団体、ボランティア団体から参加依頼の声をかけていただいたが、防災チームのメンバーの部活、実習課題、就職活動等と重なり、イベント参加に人数が集まらずに苦勞した。
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○基本的にプランの内容は、昨年度の継続的活動が多かったため、準備に関してはおおむね苦勞することなく取り組むことが出来た。</p>
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<p>○防災リーフレット製作等の防災パンフ、チラシの製作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他団体の依頼者の方と打ち合わせを入念に行い、製作に取り組んだ。何度も試行錯誤を繰り返し、解りやすく、見やすいパンフレット、チラシを製作することが出来たが、時間がかかりすぎてしまった。 <p>○地域連携活動（工芸高校主催宿泊防災訓練の開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシの作成、配布、区長からの声かけなど、地域の方々に1人でも多くの方に参加してもらうために、取り組みを行ったが、地域の方々の参加者が、役員とその家族の方々がほとんどで、一般の方たちを引き込むことが出来なかった。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	①名古屋市立東桜小学校 ②名古屋中学校高等学校	①災害かまどベンチ製作 ②宿泊訓練開催（防災チームが参加） 合同防災減災勉強会 宿泊訓練参加（工芸高校宿泊訓練に参加）
保護者・ PTAの組織	①名古屋市立工芸高等学校 PTA	①文化祭防災ブースに参加
地域組織	①名古屋市東区矢田学区 ②名古屋市東区東白壁学区	①宿泊訓練開催（防災チームが参加） ②宿泊訓練参加（工芸高校宿泊訓練に参加）
国・地方公共団体・ 公共施設	①名古屋市東区役所 ②名古屋市東区社会福祉協議会	①防災活動助言、指導 工芸高校宿泊訓練毛布貸し出し、段ボール貸し出し、水提供 各種イベント開催（工芸高校防災チームが参加） ②防災ボランティア（工芸高校防災チームが参加）
企業・ 産業関連の組合等	①敷島製パン株式会社 ②愛知県建設業協会 ③名古屋市建設業協会	①工芸高校宿泊訓練朝食用パンの提供 ②③持続可能な明日をめざすシンポジウム開催（工芸高校防災チームが参加）
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	①東区ボランティア連絡会（東ほっとねっと） ②名古屋ひがし防災ボランティアネットワーク ③災害ボランティアコーディネーターなごや ④レスキューストックヤード	①②防災活動助言 各種イベント開催（工芸高校防災チームが参加） ③工芸高校宿泊訓練講話講師 防災活動助言 ④防災活動助言
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	①なごや環境大学	①持続可能な明日をめざすシンポジウム開催（工芸高校防災チームが参加）

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>○各種イベント、ボランティア参加 ・名古屋市東区の総合防災訓練など大規模で、多くの地域の方々、防災ボランティア団体が参加するイベントに参加し、工芸高校防災チームの名前と活動内容を認識してもらうことが出来た。また、これらの活動を通じて、地域や各種団体、企業と顔なじみの関係を作り、お互いの得意分野で協力できる関係を築くことが出来た。</p> <p>○福祉避難スペース製作、災害ボランティア振り分け法、ボランティアの心得、募金活動など防災に関する知識や技術を身に付けることが出来た。また、防災に関することだけではなく、障害を持った方、高齢の方などと協同して取り組む機会が多々あり、助け合いの精神の大切さを再確認することが出来た。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>○地域連携活動 生徒達は、多くのイベントを企画し、地域、企業と共に考え、1つ1つのイベントを成功させる事が出来た。メイン企画である宿泊型避難訓練を終えて、災害に対して、地域、企業、行政、学校が1つになって取り組み、協力する事の大切さを再確認する事が出来た。</p> <p>○1年間の防災減災活動を通して、工芸高校と工芸高校防災チームのメンバーは大きくスキルアップすることができたと確信している。また、テーマにも掲げている、地域、企業、行政、学校の連携も深める事が出来た。 今後は、この取り組みを工芸高校だけの取り組みではなく、地域、地元の小中学校、名古屋市立高校全体へと広げていく活動に取り組んでいかなくてはならないと考える。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>今後もこの取り組みを継続、発展させるために、以下の4点を課題にし、今後の活動に取り組みたい。</p> <p>①ものづくり(工業系、芸術系)を通して、より多くの生徒、教員の防災、減災に対する意識、関心、技術、知識を高める。</p> <p>②地域、企業、行政、学校との連携を発展させ、防災、減災に関する意識、技術の高いまちづくりを目指す。</p> <p>③防災イベントを通じて、他団体と防災に対する考え方や意識の調整を行い、各団体の相互理解を深める。</p> <p>④防災チーム単独の活動ではなく、チーム工芸高校として、教科、学科、部活動、防災チームが協同して活動に取り組めます。</p>

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

○いきなり防災訓練企画、立案、運営（9月4日）アンケート結果より

ほとんどの生徒が、積極的に取り組むことができた。今回は、ミッションとして負傷者と表示の入った、ピブスを着た要救助者の救出を数箇所企画したが、どのように対応したらよいかわからず関わらない生徒が大半であった。今後は、救護の仕方、対応の方法などを防災リーフレット等で配布し、いつ起こるかわからない災害に対して、助け合いの精神を持って、対応できる知識、技術を身につけられるように取り組んでいきたい。



全学年

NO	質問項目	結果
1	防災訓練に積極的に参加できましたか？	306 (できた) / 421 (どちらかといえばできた) / 56 (どちらかといえばできなかった) / 26 (できなかった)
2	警報が鳴った時先生の指示に従えましたか？	603 (できた) / 182 (どちらかといえばできた) / 68 (どちらかといえばできなかった) / 8 (できなかった)
3	警報が鳴った時の先生の指示は正しかったですか？	554 (できた) / 198 (どちらかといえばできた) / 253 (どちらかといえばできなかった) / 32 (できなかった)
4	もし先生がいなくても自分の判断で避難できますか？	471 (できた) / 304 (どちらかといえばできた) / 27 (どちらかといえばできなかった) / 7 (できなかった)
5	素早く避難することはできましたか？	455 (できた) / 293 (どちらかといえばできた) / 431 (どちらかといえばできなかった) / 18 (できなかった)
6	ミッションに関わりましたか？	90 (関わった) / 82 (見つけたけどやらなかった) / 637 (関わらなかった)

○工芸高校宿泊型避難訓練開催（10月28日～29日）の様子を写真で紹介합니다。

【準備・設営】毛布の搬入、簡易間仕切り、簡易トイレの設営。



【ワークショップ① 災害と食について考える】災害が起きたあとの環境を①水も何もない（そのままカップ麺を食べる）②水しかない（水でカップ麺を食べる）③お湯は少量ある（お湯でカップ麺を通常通り食べる）④煮炊きができるの（豚汁とご飯を食べる）の4ステージに分けて、それぞれの状況で食事をしていただき付箋でアンケートを取った。



(自由記述 : 1 / 3)



【ワークショップ② ソーラークッカー製作】ソーラークッカーとは太陽の光だけで調理する道具のことである。ソーラークッカーには、パラボラ型・熱箱型・パネル型があり、今回は、製作、組み立てが簡単なパネル型を製作に取り組んだ。



【ワークショップ③ ニヶ坂断層巡検】名古屋中学校高等学校の理科の先生による講話、巡検を行った。



【防災チーム活動用ビブス製作】名古屋市東区社会福祉協議会（赤い羽根共同募金）より支援をいただき、活動用ユニホームの製作を行った。



(自由記述 : 2 / 3)



【KOGEIDESIGN OFFICE】チャレンジプランでの2年間の活動を終え、工芸高校防災チームは、防災、減災に関するスキルや地域、各種団体とのネットワークの構築と多くの成果を得ることができました。今後も地域と共にをキーワードに活動を展開していきます。今後は防災チーム単独の活動ではなく、チーム工芸高校として、工芸高校内に生徒が運営するデザイン事務所「まちのデザイン事務所 KOGEIDESIGN OFFICE」を開設し、地域・企業・公共団体・大学などとコラボレーションしながら、様々なプロジェクトに取り組んでいきます。工芸高校のデザイン思考力を活かして、画期的で斬新な解決プランやアイデアを創出し、地域や企業、各種団体（クライアント）を満足させるだけでなく地域全体を活性化させることで、安心安全で防災に強く、人々がワクワクするようなまちづくりに取り組んでいきます。

様々な人々のニーズに応えるデザインかけこみ寺、「まちのデザイン事務所-KOGEI DESIGN OFFICE-」
地域を活性化させるプロジェクトが、いよいよ始動します！



KOGEI DESIGN OFFICE とは!?

工芸高校に開設された高校生が運営する全く新しいかたちのデザイン事務所です。
企業・公共団体・大学・地域とコラボレーションし、様々なプロジェクトに取り組みます。工芸生のデザイン思考力で画期的な解決プランを提案し、地域を活性化させて人々がワクワクするようなまちを実現します。

たとえば、こんなプロジェクトができます！



× 企業

- ・新製品のアイデア
- ・広告デザイン



× 大学

- ・大学生との共同作品制作



× 地域

- ・近隣小中学校への防災協力
- ・地域イベントの取材、撮影



× 公共団体

- ・公共施設の壁画制作
- ・広報のデザイン



× 商店街

- ・キャラクターデザイン
- ・ウェブ制作

活動情報をどんどん発信します！

様々なメディアや SNS を通じて、活動の成果を全国に PR していきます。